

Round  
1&2

開幕戦の岡山大会で TEAM KTOUCH PORSCHE

1・2 FINISH !!

Excellence × Bright

PC SETAGAYA

PC GINZA

PC MEGURO

TEAM KTOUCH PORSCHE が岡山国際サーキットへ乗り込んだのは開幕戦前日の4月4日。チームはこの日、3月に富士スピードウェイにて開催された合同テストぶりに集合した。

今季からカレラカップの車輛は 991 モデルに変わり、どのチームも同じスタートラインに立つ。

岡山国際サーキットでの走行に慣れていない山野は「997 から 991 に変わりどれだけコースレコードを更新出来るかな…」とワクワクしている様子だったが、昨年度のシリーズチャンピオンである小河は不安な面持ち。「車輛が変わっている事に加え、富士での合同テストが悪天候だった事もあり、全く車輛のセッティングが決まっていなから不安だ」と語った。

専有走行1本目は生憎のウェットコンディション。SKY Racing の近藤が TOP タイムを出し、小河は3位、山野は5位という結果だったが、

「天候が良くなかったので、とりあえず車のバランスを確認したかったんで」という山野の表情には余裕すら感じられた。

続く2本目の走行は時折雨が混じる天候だったが、ドライタイヤでのアタックが出来、1分34秒213のタイムで山野が従来のコースレコードを更新。あいにく赤旗が出てしまった事で、十分なアタックが出来なかった小河の顔には悔しさが残る。

開幕戦当日の朝、スーパーGTのフリー走行を見つめる2人。天候がころころと変わる中、なんとかドライコンディションを保ったまま、灰色の厚い雲の下で予選のスタート時間が訪れる。

開幕戦岡山の予選は計測30分の1本勝負。今季より予選システムが変更され、岡山大会の様なダブルヘッダーレースでは、予選のベストタイム順に第1戦のスターティンググリッドが決定され、予選のセカンドベストタイムにて第2レースのグリッドが形成される事になった。それにより、従来では1周の速さ(=ベストタイム)が求められたが、今回から更にもう1周の速さが必要となった。コースの状況やタイヤのグリップ力の見極めもこれまで以上に大事になった。

レースは1つのミスや、タイミングにより結果が大きく左右されてしまうのだが、それがレースの魅力でもある。入念にタイヤの熱入れをした山野は最初のアタックで1分32秒台をマーク。小河も最終コーナーまで全体ベストで走行していたが最終コーナーのミスによりタイムをロスしてしまった。ライバルの1人 GARMINPORSCHE の元嶋選手が予選終了間際に1分32秒381をマークし2番手に躍り上がる。自己ベストで快走を見せていたライバル近藤の激走は赤旗中断により



幻と消え、蓋を開けてみれば2位とわずか0.02秒差で山野がポールポジションをゲット。レコードホルダーとなった山野は、「開幕戦としては上出来です」と納得した様子。一方の小河は自らの最終コーナーでのミスが悔やまれて仕方が無い様子を見せながらも、「去年も決勝で順位をあげ、最終的には優勝も出来たので、決勝でのチャンスを伺います」と口にし、自らのメンタルをコントロールしている様に見えた。



Round1 スタート

予選から4時間余りのインターバルを始めて始まった PCCJ2014 年シリーズ開幕戦の決勝は、気温 10 度、路面温度 14 度の中ドライコンディションにてスタート。991 モデルに変わった事でクラッチミートが難しくなった様で、テスト走行や予選中にもエンジントップしてしまう車輛が多く見られたが、車に優しいスタートを心がけた TEAM KTOUCH PORSCHE の 2 台は若干出遅ってしまった。1 コーナー進入の時点で順位は、1 位元嶋、2 位山野、3 位近藤、4 位小河というオーダー。誰もが今季の PCCJ の熱戦を再確認したのもつかの間、後方で起きたクラッシュを原因に 2 周目の 2 コーナーで TOP を走る元嶋がコースアウト。その後で近藤と小河もコースアウトを喫し赤旗にてレースが中断となった。レースは SC スタートにより再開される事になったが、ここで焦ったのは TEAM KTOUCH PORSCHE のブライトチーム (小河号)。今年集められたメカニックには新入社員も含まれ、未だ実践的なトレーニングもつまみず、グリッド上でタイヤ交換を強いられる。与えられた時間は 2 分を切り、1 本のタイヤが未交換のままオフィシャルがカウントダウンを始めた。メカニックが車輛から手を離れたのは作業終了時刻のわずか 1 秒前。「ブライト号のメカニックなら出来る」と信じていたから全く焦らなかった。むしろ、まだまだ経験の浅い皆さんにあの場でタイヤの交換を要求してごめんなさい」という小河と、「再スタートの直前まで不安な思いをさせてしまった事はメカニックとして痛恨の極み」と話すブライト号メカニック。初戦を迎えたばかりにも関わらず絶大な信頼関係が築き上げられていた。絶妙な再スタートを決めた山野は終盤安定の走りでもトップチェッカー。7 番手からの再スタートを強いられた小河はゴール直前のストレートで 2 位の飯田に対し 0.15 秒まで詰め寄るも抜く事が出来ないまま 3 位フィニッシュ。「あと 1 周あったら…」と悔しい表情。「まず 1 勝！ いい開幕戦になったね」と笑顔を見せる山野の横にも今季から新しく参入したエクセレンス号メカニック達の姿があった。



岡山開幕戦は何故か毎年天候が不安定で、初参戦のメカニックが「レインなのか、スリックなのか…」とドキドキした表情をグリッド上で見せているのがとても印象的である。予め SC スタートが決まっていた第 2 戦も、スタート直線には雨の粒を感じられる状態だった。開幕 2 戦目にしてフロントローを独占した TEAM KTOUCH PORSCHE メンバーは、「頼むから、あと 30 分だけ雨をこらえて下さい」と天に願っていた。

SC の先導は 3 周続き、レースがスタートした瞬間、山野が完璧なスタートダッシュを見せ、コントロールラインを通過した時点でチームメイトの小河に 1.8 秒の差をつける。15 周というレースを見越した安定の走りを見せる山野に対し、とにかく追いつこうとプッシュした小河はレース中のファステストラップを毎周更新するも、山野に追いつく事は出来なかった。

13 周目に入ると雨脚も強くなり、雹までもが降って来た事で再度セーフティカーが入る。これが前座レースの宿命というもので、前日の小河同様あと一歩という所で 4 位近藤は 3 位永井に追いつけぬままチェッカー。TEAM KTOUCH PORSCHE は念願のワンツーフィニッシュを開幕の岡山ラウンドで達成した！

「開幕戦から 2 日連続で 2 人ともポディウムに立てたこと、そして、2 戦目にしてワンツーフィニッシュで終えられた事が非常に嬉しい」と語ったのは藤田チーム代表。

「期待されている時ほど勝てないのがレース。沢山の方に期待して頂いているのが伝わって来ていたからこそ、この 2 勝にとっても安心していきます。次戦の富士は誰もが多くのテストを積んでいるサーキット。そこで今回と同じ様に勝てる様、今出来る分析をしていきます」と山野が語る傍ら、「先輩のお陰で非常に勉強になる 1 年になる事を実感した岡山でした。近い将来、必ず逆バージョンのワンツーを達成して見せます」と前向きな小河の若さが印象的だった。

昨年までとは違い、ポルシェセンターのメカニックだけで戦う今季、「早くも 1・2 フィニッシュを達成してしまった事で、この先が更に期待と不安でいっぱいになりました。常に他の人よりも先をイメージする事で安全とスピードと結果に繋げて行ける様に頑張ります」と語る鈴木チーフメカ (PC 世田谷工場)。「チームでのコミュニケーションを大切に、ドライバーに安心して乗ってもらえる車を準備します」と語るのは田久保サブチーフメカ (PC 目黒)。

「とにかく感動しました。」「レースの事は何も分からない。それでもこの様な素晴らしい経験の場を与えて頂いた事への感謝を忘れず、少しでも早くチームに貢献出来る頑張ります。」「タイヤ交換を終えた瞬間に車が走り去って行く時の、あのゾクゾク感が溜まりません。次回までもっと早くタイヤを交換出来る様になります」「レースでの経験を日頃の工場での作業に生かし、お客様にもよりご満足頂ける仕事出来る様にします」と語るメカニックの面々。走り出したばかりのチームだとは思えない程のモチベーションが、見ているこちらにもピンピンと伝わって来た事は言うまでもない。

次戦は 5 月の富士。熱き戦いに期待し、エールを送ってください。



フロントローに 2 台が並ぶ



Round2 表彰式



初戦を終えた直後のショット

f Team Ktouch Porsche

いいね！をお願いします

## Porsche Carrera Cup Japan 年間スケジュール

Round	Date	Circuit	Course Length	Event Name
合同テスト	3月4日～5日	富士スピードウェイ	4.563km	オフィシャルテスト
1戦・2戦	4月5日～6日	岡山国際サーキット	3.703km	SUPER GT
3戦	5月3日～4日	富士スピードウェイ	4.563km	SUPER GT
4戦・5戦	6月7日～8日	富士スピードウェイ	4.563km	ザ・ワンメイク祭り
6戦・7戦	7月19日～20日	スポーツランド菅生	3.704km	SUPER GT
8戦	8月30日～31日	鈴鹿サーキット	5.807km	SUPER GT
9戦	10月3日～5日	鈴鹿サーキット	5.807km	F1日本グランプリ

応援よろしくをお願いします！

PORSCHE

CARRERA CUP JAPAN